

くぼた ともこ
久保田 知子さん (34歳)

営農地:糸島市志摩桜井、
大分県九重町
主な農産物:ハーブ、西洋野菜



農業はやりがいを得られる仕事

● 就農のきっかけ

「親孝行をしたい」という思いから就農へ

大学卒業後、企業に就職した久保田さん。職場の労働環境、人間関係も良く、特に不満はありませんでしたが、勤めてみて初めて両親が朝早くから夜遅くまで眠る時間を削ってどれほど一生懸命仕事をしていたか実感したそうです。

家族と話を重ね、「自分も家族の一員として農業をやりたい。今ならできる」という強い思いで7年前に退社を決意し、実家「久保田農園」の経営に携わることになりました。

● 私の今～就農後の道のり～

販売・広報担当として

「自分の農園で何を生産しているのか知りたいと思い、野菜の知識を得るため野菜ソムリエの資格を取得しました。」と語る久保田さん。

現在、農園で販売と広報活動を担当しています。

販売では、お客様からの注文、要望を受け、注文通りに間違いなくお客様のもとへお届けできるよう、収穫担当者や出荷担当者への伝達を確実にを行うように心がけています。広報では現在出荷中の商品やこれから出荷予定の商品を掲載した商品情報(リーフレット)を月2回発行しています。加えて携帯電話向けのホームページの管理を行い、お客様にわかりやすい情報提供を目指しています。お客様から野菜の特性、栄養価等の質問もされますが、野菜ソムリエ取得時に勉強した知識で回答しています。

今年2月には農園の役員となり従業員の労働環境改善や雇用管理にも携わっています。

● これからの夢、目標

信頼される農園へ

一般企業に勤めた経験を活かして、法人運営が身内寄りの考えにならないようビジネス感覚を取り入れていきたいと考えている久保田さん。

両親が築いてきた「久保田農園」というブランドと商品力、お客様とのつながりを絶やさないために、受注のやり取りだけでなく、お客様との会話や注文の内容からお客様の要望や好みを読み取るように心がけ、期待以上の対応ができることを目指しています。

また「農業に対する世間のイメージは大きく変わっていますが、農業で働くというとまだまだネガティブイメージが強いのが実情ではないかと感じています。実際、農業は休みがない業種であり、農業法人であっても一般企業のような休日や福利厚生を設けるのは難しいですが、それ以上にやりがいを得られる仕事なので、現在従事している人を含め、これからの若い方々にも農業で働く喜びを感じてもらえるように努めたいです。」と思いを語ってくれました。



プロフィール

- 家族構成 / 本人、父、母、兄、義姉
- 営農年数 / 約7年
- 耕作(経営)面積 / 糸島市3.5ha、九重町2.5ha
- 販路 / 青果市場、青果小売店、レストランへの出荷

就農を考えている女性へ ♡

農業というと野菜の栽培と考えがちですが、現在の農業は野菜を栽培するだけではありません。販売や加工、商品企画、ブランドづくりなど、畑以外で女性が活躍できる場は多くありますので、得意な分野で農業に参加してほしいです。